

1月28日に日本野球規則委員会より、2019年度の野球規則改正が発表されました。

今回の大きな改正点は、イニングはじめに投手は8球以内、1分以内まで準備投球が認められていましたが、この制限が撤廃されました。その代わりに、ベンチ横やブルペンで行われてきたキャッチボールの禁止を徹底するという改正が行われています。

また、改正によりランナーは、アウトになった後も走り続けているだけでは妨害行為とはみなされません。同様に、帰塁についても、走り続けるだけでは妨害行為とはみなされません。

発表された内容は以下のとおりで、赤く表示した部分が改正された内容です。

現 行	改 正 後																																																								
<p>3.01 ボール 【軟式注】 軟式野球ボールは、外周はゴム製で、M号、B号、C号、D号、H号の5種類がある。M号は一般用、B、C、D号は少年用のいずれも中空ボールで、H号は一般用の充填物の入ったボールである。 ボールの標準は次のとおりである。(反発は150ㇰの高さから大理石板に落として測る。M号の20%圧縮荷重は、ボール直径を20%つぶしたときの力を測る。)</p> <table border="1" data-bbox="138 791 1106 1043"> <thead> <tr> <th></th> <th>直径</th> <th>重量</th> <th>反発</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>M号</td> <td>71.5ㇰ～72.5ㇰ</td> <td>136.2ㇰ～139.8ㇰ</td> <td>70.0ㇰ～90.0ㇰ</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>20%圧縮荷重</td> <td>32ㇰ～40ㇰ</td> </tr> <tr> <td>B号</td> <td>69.5ㇰ～70.5ㇰ</td> <td>133.2ㇰ～136.8ㇰ</td> <td>80.0ㇰ～100.0ㇰ</td> </tr> <tr> <td>C号</td> <td>67.5ㇰ～68.5ㇰ</td> <td>126.2ㇰ～129.8ㇰ</td> <td>65.0ㇰ～85.0ㇰ</td> </tr> <tr> <td>D号</td> <td>64.0ㇰ～65.0ㇰ</td> <td>105.0ㇰ～110.0ㇰ</td> <td>65.0ㇰ～85.0ㇰ</td> </tr> <tr> <td>H号</td> <td>71.5ㇰ～72.5ㇰ</td> <td>141.2ㇰ～148.8ㇰ</td> <td>50.0ㇰ～70.0ㇰ</td> </tr> </tbody> </table>		直径	重量	反発	M号	71.5ㇰ～72.5ㇰ	136.2ㇰ～139.8ㇰ	70.0ㇰ～90.0ㇰ			20%圧縮荷重	32ㇰ～40ㇰ	B号	69.5ㇰ～70.5ㇰ	133.2ㇰ～136.8ㇰ	80.0ㇰ～100.0ㇰ	C号	67.5ㇰ～68.5ㇰ	126.2ㇰ～129.8ㇰ	65.0ㇰ～85.0ㇰ	D号	64.0ㇰ～65.0ㇰ	105.0ㇰ～110.0ㇰ	65.0ㇰ～85.0ㇰ	H号	71.5ㇰ～72.5ㇰ	141.2ㇰ～148.8ㇰ	50.0ㇰ～70.0ㇰ	<p>3.01 ボール 【軟式注】 軟式野球ボールは、外周はゴム製で、M号、<b>J号</b>、D号、H号の<b>4種類</b>がある。M号は一般用、<b>J号</b>、D号は少年用のいずれも中空ボールで、H号は一般用の充填物の入ったボールである。 ボールの標準は次のとおりである。(反発は150ㇰの高さから大理石板に落として測る。M号、<b>J号</b>の20%圧縮荷重は、ボール直径を20%つぶしたときの力を測る。)</p> <table border="1" data-bbox="1124 791 2094 1043"> <thead> <tr> <th></th> <th>直径</th> <th>重量</th> <th>反発</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>M号</td> <td>71.5ㇰ～72.5ㇰ</td> <td>136.2ㇰ～139.8ㇰ</td> <td>70.0ㇰ～90.0ㇰ</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>20%圧縮荷重</td> <td>32ㇰ～40ㇰ</td> </tr> <tr> <td><b>J号</b></td> <td><b>68.5ㇰ～69.5ㇰ</b></td> <td><b>127.2ㇰ～130.8ㇰ</b></td> <td><b>60.0ㇰ～80.0ㇰ</b></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td><b>20%圧縮荷重</b></td> <td><b>27ㇰ～37ㇰ</b></td> </tr> <tr> <td>D号</td> <td>64.0ㇰ～65.0ㇰ</td> <td>105.0ㇰ～110.0ㇰ</td> <td>65.0ㇰ～85.0ㇰ</td> </tr> <tr> <td>H号</td> <td>71.5ㇰ～72.5ㇰ</td> <td>141.2ㇰ～148.8ㇰ</td> <td>50.0ㇰ～70.0ㇰ</td> </tr> </tbody> </table>		直径	重量	反発	M号	71.5ㇰ～72.5ㇰ	136.2ㇰ～139.8ㇰ	70.0ㇰ～90.0ㇰ			20%圧縮荷重	32ㇰ～40ㇰ	<b>J号</b>	<b>68.5ㇰ～69.5ㇰ</b>	<b>127.2ㇰ～130.8ㇰ</b>	<b>60.0ㇰ～80.0ㇰ</b>			<b>20%圧縮荷重</b>	<b>27ㇰ～37ㇰ</b>	D号	64.0ㇰ～65.0ㇰ	105.0ㇰ～110.0ㇰ	65.0ㇰ～85.0ㇰ	H号	71.5ㇰ～72.5ㇰ	141.2ㇰ～148.8ㇰ	50.0ㇰ～70.0ㇰ
	直径	重量	反発																																																						
M号	71.5ㇰ～72.5ㇰ	136.2ㇰ～139.8ㇰ	70.0ㇰ～90.0ㇰ																																																						
		20%圧縮荷重	32ㇰ～40ㇰ																																																						
B号	69.5ㇰ～70.5ㇰ	133.2ㇰ～136.8ㇰ	80.0ㇰ～100.0ㇰ																																																						
C号	67.5ㇰ～68.5ㇰ	126.2ㇰ～129.8ㇰ	65.0ㇰ～85.0ㇰ																																																						
D号	64.0ㇰ～65.0ㇰ	105.0ㇰ～110.0ㇰ	65.0ㇰ～85.0ㇰ																																																						
H号	71.5ㇰ～72.5ㇰ	141.2ㇰ～148.8ㇰ	50.0ㇰ～70.0ㇰ																																																						
	直径	重量	反発																																																						
M号	71.5ㇰ～72.5ㇰ	136.2ㇰ～139.8ㇰ	70.0ㇰ～90.0ㇰ																																																						
		20%圧縮荷重	32ㇰ～40ㇰ																																																						
<b>J号</b>	<b>68.5ㇰ～69.5ㇰ</b>	<b>127.2ㇰ～130.8ㇰ</b>	<b>60.0ㇰ～80.0ㇰ</b>																																																						
		<b>20%圧縮荷重</b>	<b>27ㇰ～37ㇰ</b>																																																						
D号	64.0ㇰ～65.0ㇰ	105.0ㇰ～110.0ㇰ	65.0ㇰ～85.0ㇰ																																																						
H号	71.5ㇰ～72.5ㇰ	141.2ㇰ～148.8ㇰ	50.0ㇰ～70.0ㇰ																																																						
<p>4.08 ダブルヘッダー (c) ダブルヘッダーの第2試合は、第1試合の終了20分後に開始する。ただし、この2試合の間にこれ以上の時間(30分を超えないこと)を必要とするときは、第1試合終了時に、球審はその旨を宣告して相手チームの監督に通告しなければならない。 【注】両チーム監督の同意を得れば、ダブルヘッダーの第2試合を、第1試合の終了後20分以内に開始してもさしつかえない。</p>	<p>4.08 ダブルヘッダー (c) ダブルヘッダーの第2試合は、第1試合の終了<b>30分</b>後に開始する。ただし、この2試合の間にこれ以上の時間(<b>45分</b>を超えないこと)を必要とするときは、第1試合終了時に、球審はその旨を宣告して相手チームの監督に通告しなければならない。 【注】両チーム監督の同意を得れば、ダブルヘッダーの第2試合を、第1試合の終了後<b>30分</b>以内に開始してもさしつかえない。</p>																																																								

<p>5.07 投手  (b) 準備投球  投手は各回のはじめに登板する際、あるいは他の投手を救援する際には、捕手を相手に 8 球を超えない準備投球をすることは許される。この間プレイは停止される。  各リーグは、その独自の判断で、準備投球の数を 8 球以下に制限してもさしつかえない。このような準備投球は、いずれの場合も 1 分間を超えてはならない。  突然の事故のために、ウォームアップをする機会を得ないで登板した投手には、球審は必要と思われる数の投球を許してもよい。</p>	<p>5.07 投手  (b) 準備投球  投手は各回のはじめに登板する際、あるいは他の投手を救援する際には、捕手を相手に <u>削除</u> 準備投球をすることは許される。この間プレイは停止される。  各リーグは、その独自の判断で、準備投球の数 <u>や時間を</u> 制限してもさしつかえない。 <u>削除</u>  突然の事故のために、ウォームアップをする機会を得ないで登板した投手には、球審は必要と思われる数の投球を許してもよい。</p>
<p>5.09 アウト  (c) アピールプレイ  次の場合、アピールがあれば、走者はアウトとなる。  (1) 飛球が捕らえられた後、走者が再度の触塁（リタッチ）を果たす前に、身体あるいはその塁にタッチされた場合。  【原注】ここでいう“リタッチ、とは、捕球後、塁に触れた状態から次塁へスタートすることをいう。  したがって、塁の後方からスタートして、走りながら塁に触れて次塁へ進もうとするいわゆるフライングスタートは、正規なリタッチの方法ではない。</p>	<p>5.09 アウト  (c) アピールプレイ  次の場合、アピールがあれば、走者はアウトとなる。  (1) 飛球が捕らえられた後、走者が再度の触塁（リタッチ）を果たす前に、身体あるいはその塁にタッチされた場合。  【原注】ここでいう“リタッチ、とは、捕球後、塁に触れた状態から次塁へスタートすることをいう。  したがって、塁の後方からスタートして、走りながら塁に触れて次塁へ進もうとするいわゆるフライングスタートは、正規なリタッチの方法ではない。 <u>このような走者は、アピールがあればアウトとなる。</u></p>

## 5.10 プレーヤーの交代

### (1) マウンドに行く回数

【5.10I 原注】監督（またはコーチ）が、捕手または内野手のところへ行き、その野手があるままマウンドに行ったり、投手が、守備位置にいるその野手のところへ行ったときは、監督（またはコーチ）がマウンドに行ったものと同様に扱われる。ただし、1球が投げられた後、またはプレイが行われた後は、この限りではない。

監督（またはコーチ）が、捕手または内野手のところへ行き、その野手が投手と相談するためにマウンドに行き、規則の適用をのがれようとしたり、規則を出し抜こうとするいかなる企ても、すべてマウンドへ行った回数に数えられる。

コーチがマウンドに行き投手を退け、新しく出てきた投手に指示を与えるために監督がマウンドに行ったときは、そのイニングで新しい投手のもとへ1度行ったことになる。

監督が既に1度投手のもとへ行っているため、同一イニングで同一投手へ、同一打者のときには、もう1度行くことはできないと審判員が警告したにもかかわらず、監督が行った場合、その監督は試合から除かれ、投手はただちに退かないでその打者がアウトになるか、走者になるまで投球し、その義務を果たした後に試合から退かなければならない。この場合、監督は、その投手は1人の打者に投球したら交代しなければならぬのだから、リリーフ投手にウォームアップさせておかなければならない。リリーフ投手は、審判員の適宜な判断において、8球またはそれ以上の準備投球が許される。

投手が負傷を受けたとき、監督がその投手のもとへ行きたいときには、審判員にその許可を要請することができる。許可があれば、マウンドに行く回数には数えられない。

## 5.10 プレーヤーの交代

### (1) 監督・コーチがマウンドに行ける回数

【5.10I 原注】監督（またはコーチ）が、捕手または内野手のところへ行き、その野手があるままマウンドに行ったり、投手が、守備位置にいるその野手のところへ行ったときは、監督（またはコーチ）がマウンドに行ったものと同様に扱われる。ただし、1球が投げられた後、またはプレイが行われた後は、この限りではない。

監督（またはコーチ）が、捕手または内野手のところへ行き、その野手が投手と相談するためにマウンドに行き、規則の適用をのがれようとしたり、規則を出し抜こうとするいかなる企ても、すべてマウンドへ行った回数に数えられる。

コーチがマウンドに行き投手を退け、新しく出てきた投手に指示を与えるために監督がマウンドに行ったときは、そのイニングで新しい投手のもとへ1度行ったことになる。

監督が既に1度投手のもとへ行っているため、同一イニングで同一投手へ、同一打者のときには、もう1度行くことはできないと審判員が警告したにもかかわらず、監督が行った場合、その監督は試合から除かれ、投手はただちに退かないでその打者がアウトになるか、走者になるまで投球し、その義務を果たした後に試合から退かなければならない。この場合、監督は、その投手は1人の打者に投球したら交代しなければならぬのだから、リリーフ投手にウォームアップさせておかなければならない。リリーフ投手は、審判員の適宜な判断において、**必要な**準備投球が許される。

投手が負傷を受けたとき、監督がその投手のもとへ行きたいときには、審判員にその許可を要請することができる。許可があれば、マウンドに行く回数には数えられない。

	<p>(m) マウンドに行く回数の制限  以下の規則は、メジャーリーグで適用される。マイナーリーグでは、1試合のマウンドに行ける回数について、本項規定と異なる制限を設けてもよいし、制限を設けないこともできる。</p> <p>(1) 投手交代を伴わないでマウンドに行くことは、9イニングにつき1チームあたり6回に限られる。延長回については、1イニングにつき1回、マウンドに行くことができる。</p> <p>(2) 監督またはコーチが投手と話すためにマウンドに行った場合、回数に数える。また、野手が投手と相談するために守備位置を離れた場合や投手が野手と相談するためにマウンドを離れた場合も、位置や時間にかかわらず回数に数える。ただし、次の場合を除く。</p> <p>(A) 打者が打撃を完了して次の打者が打席に入るまでの間、投手と野手がいずれも守備位置から離れずに話し合いが行なわれた場合。</p> <p>(B) 雨天時に野手がスパイクの汚れを払うためにマウンドに行った場合。</p> <p>(C) 投手の負傷、または負傷の可能性があるために、野手がマウンドに行った場合。</p> <p>(D) 攻撃側チームによる選手交代の通告後、野手がマウンドに行った場合。</p> <p>(3) サインの確認——1試合（または延長回）で決められたマウンドに行くことができる回数を使い果たした後に、捕手が出したサインについて投手と意思の確認ができていないと球審が判断した場合には、捕手からの要求があれば球審は捕手に少しだけマウンドに行くことを認めてもよい。決められた制限回数を使い果たす前にサインの確認のためにマウンドに行った場合は、回数に数える。</p> <p><b>【注】我が国では、所属する団体の規定に従う。</b></p>
<p>6.01 妨害・オブストラクション・本塁での衝突プレイ</p> <p>(a) 打者または走者の妨害</p> <p>(5) アウトになったばかりの打者または走者、あるいは得点したばかりの走者が、味方の走者に対する野手の次の行動を阻止するか、あるいは妨げた場合は、その走者は味方のプレーヤーが相手の守備を妨害（インターフェア）したものであるとして、アウトを宣告される。(5.09a13 参照)</p> <p><b>【原注】</b>打者または走者がアウトになった後走り続けてもその行為だけでは、野手を惑乱したり、邪魔したり、またはさえぎったものとはみなされない。</p>	<p>6.01 妨害・オブストラクション・本塁での衝突プレイ</p> <p>(a) 打者または走者の妨害</p> <p>(5) アウトになったばかりの打者または走者、あるいは得点したばかりの走者が、味方の走者に対する野手の次の行動を阻止するか、あるいは妨げた場合は、その走者は味方のプレーヤーが相手の守備を妨害（インターフェア）したものであるとして、アウトを宣告される。(5.09a13 参照)</p> <p><b>【原注】</b>打者または走者がアウトになった後、<b>進塁を続けたり、帰塁したり、正規の占有していた塁に戻ろうと試みたりしても、その行為だけでは、野手を惑乱したり、邪魔したり、またはさえぎったものとはみなされない。</b></p>

<p>7.03 フォーフイテッドゲーム（没収試合） （a） （7）ダブルヘッダーの第2試合の際、第1試合終了後20分以内に、競技場に現れなかった場合。 ただし、第1試合の球審が第2試合開始までの時間を延長した場合は、この限りではない。</p>	<p>7.03 フォーフイテッドゲーム（没収試合） （a） （7）ダブルヘッダーの第2試合の際、第1試合終了後30分以内に、競技場に現れなかった場合。 ただし、第1試合の球審が第2試合開始までの時間を延長した場合は、この限りではない。</p>
<p>8.02 審判員の裁定 （b）審判員の裁定が規則の適用を誤って下された疑いがあるときには、監督だけがその裁定を規則に基づく正しい裁定に訂正するように要請することができる。 しかし監督はこのような裁定を下した審判員に対してだけアピールする（規則適用の訂正の申し出る）ことが許される。 【注1】 イニングの表または裏が終わったときは、投手および内野手がフェア地域を去るまでにアピールしなければならない。 【注2】 審判員が、規則に反した裁定を下したにもかかわらず、アピールもなく、定められた期間が過ぎてしまったあとでは、たとえ審判員が、その誤りに気づいても、その裁定を訂正することはできない。</p>	<p>8.02 審判員の裁定 （b）審判員の裁定が規則の適用を誤って下された疑いがあるときには、監督だけがその裁定を規則に基づく正しい裁定に訂正するように要請することができる。 しかし監督はこのような裁定を下した審判員に対してだけアピールする（規則適用の訂正の申し出る）ことが許される。 <u>削 除</u> <u>削 除</u> 【注】 審判員が、規則に反した裁定を下したにもかかわらず、アピールもなく、定められた期間が過ぎてしまったあとでは、たとえ審判員が、その誤りに気づいても、その裁定を訂正することはできない。</p>
<p>8.02 審判員の裁定 （c）審判員が、その裁定に対してアピールを受けた場合は、最終の裁定を下すにあたって、他の審判員の意見を求めることはできる。裁定を下した審判員から相談を受けた場合を除いて、審判員は、他の審判員の裁定に対して、批評を加えたり、変更を求めたり、異議を唱えたりすることは許されない。 審判員が協議して先に下した裁定を変更する場合、審判員は、走者をどこまで進めるかを含め、すべての処置をする権限を有する。この審判員の裁定に、プレーヤー、監督またはコーチは異議を唱えることはできない。異議を唱えれば、試合から除かれる。</p>	<p>8.02 審判員の裁定 （c）審判員が、その裁定に対してアピールを受けた場合は、最終の裁定を下すにあたって、他の審判員の意見を求めることはできる。裁定を下した審判員から相談を受けた場合を除いて、審判員は、他の審判員の裁定に対して、批評を加えたり、変更を求めたり、異議を唱えたりすることは許されない。 審判員が協議して先に下した裁定を変更する場合、審判員は、走者をどこまで進めるかを含め、すべての処置をする権限を有する。この審判員の裁定に、プレーヤー、監督またはコーチは異議を唱えることはできない。異議を唱えれば、試合から除かれる。 投球カウントの誤りの訂正は、投手が次の打者へ1球を投じるまで、または、イニングや試合の最終打者の場合には守備側チームのすべての内野手がフェア地域を離れるまでに行なわなければならない。</p>

本規則における用語の定義

44 INTERTFERENCE「インターフェアランス」(妨害)

(d) 観衆の妨害 —— 観衆がスタンドから乗り出したり、または競技場内に入って、(1) インプレイのボールに触れた場合、(2) インプレイのボールを守備しようとしている野手に触れたり、邪魔をした場合に起こる。

本規則における用語の定義

44 INTERTFERENCE「インターフェアランス」(妨害)

(d) 観衆の妨害 —— 観衆が競技場内に入ったり、スタンドから乗り出したり、または競技場内に物を投げ込んで、インプレイのボールを守備しようとしている野手の邪魔をした場合に起こる。